

三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2010年3月

〒444-3511
岡崎市舞木町狐山6-4
大平仁夫方
三河昆虫研究会発行
(郵便00830-9-14465)

蝶の愛好家・安留正行さんの残された標本を通して

杉坂美典

1 はじめに

安留正行（昭和29年12月～平成21年6月）さんは、年少時代を岡崎市若松町で過ごされました。仕事の傍ら、主として蝶を熱心に採集されていて、日本ばかりでなく外国の蝶類の収集もされていましたが、平成21年6月10日、54歳の若さで他界されました。そして、ご遺族によって、安留さんの貴重な標本は、すべて岡崎市へ寄贈されました。



過日、私は、市から依頼され、安留さんの標本を調査させていただきました。採集標本には、ラベルがきちんとつけられ、データが細かく記入してありました。それらは、岡崎市周辺のもの、愛知県の東北部や中部山岳などのもが多く、三河地方で採集されたものの中には、今では絶滅したものや僅かしか記録がないものも含まれていました。

そこで、これらの中から三河地方産の2種について、標本の写真やデータを公表し、安留さんのご功績を記録として残すとともに、私が感じた安留さんの思いを述べたいと思います。

2 標本の写真・データと回想

(1) ギフチョウ

標本の中には、三河地方で安留さんが採集された5頭が含まれていました。

これらの標本は、宮路山と五井山で、今から約30～40年前に採集されたものです。どの個体



写真1：宮路山産♂



写真2：五井山産♂



写真3：五井山産♂

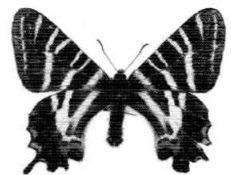


写真4：五井山産♂



写真5：五井山産♂

- | | | |
|----------|---|------------|
| ・写真1：宮路山 | ♂ | 1969年4月18日 |
| ・写真2：五井山 | ♂ | 1972年4月16日 |
| ・写真3：五井山 | ♂ | 1973年4月14日 |
| ・写真4：五井山 | ♂ | 1981年4月11日 |
| ・写真5：五井山 | ♂ | 1981年4月11日 |

も三河地方産のギフチョウの特徴を現わしていて、後翅の赤斑や青色鱗がよく発達しています。標本は、かなり古いものですが、保存状態がよく、安富さんが大切にされていたことがよく分かります。

写真1は、宮路山産の個体です。この個体は、後翅中室に小黒点が現れ、三河地方産としては、やや黒斑が発達しているタイプのものです。

私も中学生のころ、何度も宮路山にギフチョウ

を採集に出かけましたが、途中の登山道では、ギフチョウは全く見られませんでした。しかし、山頂の石碑のある周辺や隣の峰では、風に乗って吹き上がってくるギフチョウを採集することができました。ところが、春型の小型のアゲハチョウも多く、捕まえてみないと、どちらの種なのか分からないことも時々ありました。木陰から蝶が現れたとき、ドキドキしながら夢中で追っていったことを覚えています。

私は、この標本のラベルの採集年月日を見たとき、安留さんが中学生のときに採集されたものであることが分かりました。安留さんが、あこがれのギフチョウを求めて宮路山に登り、ようやく採集できたときの感動がこの標本を通して伝わってきました。

写真2～5は、五井山産の個体です。五井山に登るには、南・北・西から入るルートと宮路山を経由して東側から入るルートがあります。いずれも難コースで、ギフチョウが採集できるのは、尾根道が多かったことを覚えています。安富さんは、4頭も採集されておられることからして、何度も足を運ばれたことがうかがい知れます。

特に、1981年に記録された2頭の個体は、五井山のギフチョウが姿を消す直前の80年代に採集されたもので貴重なものです。写真4の個体は、後翅の一部が欠け、前翅の鱗粉も一部が落ちていることからして、3月下旬から4月上旬の早期に発生した個体であると思われます。

現在、ギフチョウは、宮路山と五井山には生息しておらず、どちらも1990年代には姿を消したと思われる。それゆえ、これらは大変貴重な標本です。

(2) クモガタヒヨウモン

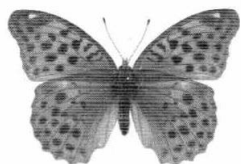


写真6：岡崎市産♀

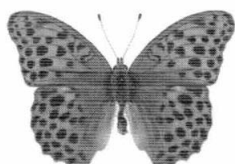


写真7：安戸町産♂

標本の中には、岡崎市内で採集された3頭が含まれていました。データは、次のとおりです。

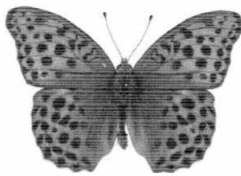


写真8：大井野町産♂

- ・写真6：岡崎市 ♀ 1993年9月26日
- ・写真7：岡崎市安戸町 ♂ 1994年5月8日
- ・写真8：岡崎市大井野町 ♂ 1994年5月14日

クモガタヒヨウモンはこれまで、岡崎市では3頭しか記録されていません。これらの標本は、すべて岡崎市産のもので、今から15年程前に採集されたものです。この標本によって、岡崎市で記録されたクモガタヒヨウモンは、計6頭になりました。

写真1は、ラベルに岡崎市としか産地の記録はありませんでしたが、♀個体です。採集月日からして、夏眠した個体が秋になって活動を再開したものを採集されたものでしょう。翅全体にわたって鱗粉がとれているのも、春に羽化した個体が秋まで生存していた証です。特にクモガタヒヨウモンの雌は個体数が少なく、貴重な標本です。

写真2と3は、同年のほぼ同じ時期に採集されており、採集地も近く、1994年の5月には、この一帯でかなりの数の個体が発生したと考えられます。さらに1997年には、大井野町の南に位置する高隆寺町で記録が出ています。これらのことからして、クモガタヒヨウモンは、90年代には、岡崎市の中央部の丘陵地一帯に局所的ながらも広く分布していたと考えられます。

3 おわりに

故人となられた安留さんや残された標本は、直接的には何も語ってくれませんが、きちんと保管された標本や標本につけられたラベルに書かれたデータは、多くのことを私たちに伝えてくれました。

安留さんの約40年間に渡る収集活動に敬意を表するとともに、ご冥福をお祈りしたいと思います。

三河湾の佐久島およびその属島のハムシ科について

山崎隆弘

筆者は1993年に浅岡孝知氏と共著で「三河湾島の昆虫」を出版した。その後も機会をみて足を運んでいる。今回、佐久島本島およびその属島の筒島(弁天島)と大島から得られたハムシ科について報告したい。これらの標本は筆者が保管している。ご指導やご協力を頂いた大平仁夫博士、浅岡孝知氏、伊藤昭博氏、小鹿享氏、三河昆虫研究会会員の方々に厚くお礼申し上げる。

佐久島 (Saku-shima)

佐久島は三河湾最大の湾のほぼ中央にある有人島である。面積1.8m²、最高地点は金剛山の37.8mで、標高30mを越える大山、遠田山、秋葉山、富士山がある。島は、畑地(73.7ha)と、自然林が島の1/4を占めた良好な自然環境である。佐久島会(2008)によると、佐久島の自生植物は521種(2008)である。本島におけるハムシ科(Chrysomelidae)についてはこれまでに32種が記録されている。

佐久島における既知種の概要

1) クビボソハムシ亜科の既記録種

ルリクビボソハムシ、トゲアシクビボソハムシ、アカクビボソハムシ、スゲクビボソハムシ、ヤマイモハムシ、トホシクビボソハムシ、セスジクビボソハムシの7種である。ルリクビボソハムシは山地性の種であるが、本島は三河湾で唯一の記録地となっている。分布上からも大変興味深いものといえよう。また、三河湾唯一のトゲアシクビボソハムシ、湿地性のスゲクビボソハムシ、南方系要素のセスジクビボソハムシなどが生息しており、本亜科の種類数が多い。

2) サルハムシ亜科の既記録種

アオガネヒメサルハムシ、アオバネサルハムシ、



図1 佐久島西港船着場にある島内の案内看板

ヒメキバネサルハムシ、イモサルハムシ、ドウガネサルハムシ、クロオビカサハラハムシの6種である。本亜科のものは暖地に生息するものが多い。

3) ハムシ亜科

ダイコンハムシ、コガタリハムシ、ヨモギハムシの3種である。ダイコンハムシ(加藤1975)は普通種であるが三河湾では唯一の記録地である。ヨモギハムシは原型のアオグロ系とドウカネ型があるが、手持ちの標本では31個体のうちドウカネ型はわずか2個体であった。三河地方南部ではこのようなパターンが多い。

4) ヒゲナガハムシ亜科の既記録種

イチゴハムシ、ウリハムシ、クロウリハムシ、ヨツボシハムシ、アトボシハムシ、クワハムシ、フタスジヒメハムシの7種である。湿潤地にみられる普通種のイチゴハムシは竹島からも記録があるが三河湾では珍しいものである。

5) ノミハムシ亜科の既記録種

コカミナリハムシ、ヒメカミナリハムシ、カミナリハムシ、サメハダツブノミハムシ、ナスナガスネトビハムシの5種である。カミナリハムシ類については、三河湾では本島のみ記録である。

6) トゲハムシ亜科の既記録種

キベリトゲハムシのみである。寒地系の本種(5-V-1986筆者採集)は、三河湾では唯一の記録

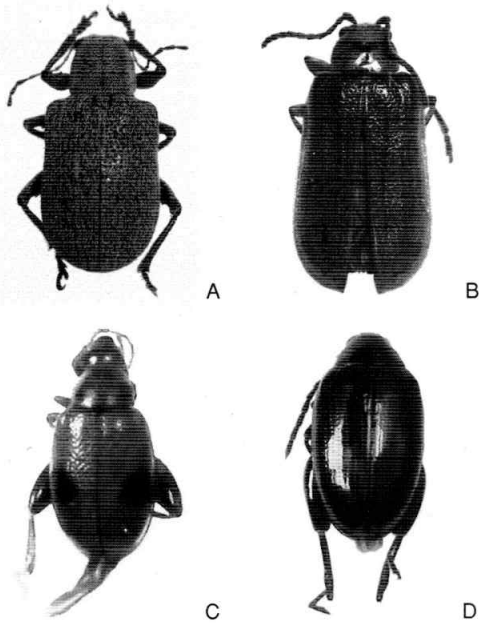


図2 佐久島から追加したハムシ

A : ニホンケブカサルハムシ, B : ジュンサイハムシ
C : クロボシトビハムシ, D : ルリナガスネトビハムシ

地である。愛知県の三河山地では各地に分布しているが、三河湾では珍しいものと思われる。

7) カメノコハムシ亜科の既記録種

スキバジンガサハムシ、カメノコハムシ、ヒメカメノコハムシの3種である。スキバジンガサハムシは、愛知県の山地にも分布するが、海岸地方や河川敷などのヒルガオに多く見られる。ヒメカメノコハムシは従来黒斑なしのイノコズチカメノコハムシと混同されていたが、既記録のものはすべてイノコズチカメノコハムシ *Cassida japona* Balyであった。

佐久島における追加種

1. ニホンケブカサルハムシ *Lypesthes japonicus*

Ohno, 1878 [図2A]

体長6.0-7.0mm。本州・九州・対馬に分布する暖地系の種でタブノキ、ケヤキ・ヤブツバキから見出されるが、愛知県では稲沢市と豊橋市の記録があるにすぎない。しかし、豊橋市新西浜町の埋立地の植栽林では個体数が多い。三河湾からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：10-V-2009,1頭; 30-V-2009,1頭。

2. ジュンサイハムシ *Galerucella nipponensis*

(Laboissiere, 1874) [図2B]

体長4.8-6.0mm。本州以南および大陸に分布し、湿地や湖沼に依存する種である。愛知県では平野部に広く分布している。本島には小規模ながら湿地や水田（過去には6.8ha）がありここから見出された。三河湾からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：10-V-2009,1頭。

3. チャバネツヤハムシ *Phygasia fulvipennis*

(Baly, 1874)

体長5.0-6.0mm。本州以南に分布する普通種である。愛知県ではほぼ全域に分布しているが、三河湾からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：29-IV-2007,1頭; 10-V-2009,1頭。

4. クロボシトビハムシ *Longitarsus bimaculatus*

(Baly) [図2C]

体長1.7-2.0mm。上翅の斑紋には変化がある。海岸部に多いネズミモチから得られる。本州以南の暖地に分布し、愛知県では広く分布している。

採集記録：10-V-2009,1頭。

5. フタイロヒサゴトビハムシ *Chaetocnema*

bicolorata Kimoto, 1971

本州に産する1.8-2.0mmの小形種である。愛知県の記録では豊田市の旭高原と、渡刈町矢作川河川敷、豊橋市下地町豊川河川敷がある。本島では中央部の湿地の溝に生育するミズソバを調べたところ多くの個体がみられた。三河湾からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：30-V-2006,1頭; 1-IX-2008,1頭; 27-IX-2009,7頭。

6. ルリナガスネトビハムシ *Psylliodes*

brettinghami Baly, 1862 [図2D]

体長3.0-4.0mm。本州以南に産する南方系の種である。愛知県では低地を中心に分布している。ホオズキ類、ジャガイモなどにつく種である。三河湾からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：24-V-2009,1頭。

7. ヒメカメノコハムシ *Cassida pioerata* Hope, 1842

普通種ではあるが黒斑ありは三河湾からは初めての記録となるもので、既記録のものはすべて黒斑なしのイノコズチカメノコハムシ *Cassida japona* Balyであった。

採集記録：30-V-2006,1頭.

大島 (Oh-shima)

大島は佐久島本島の南に隣接する属島で、平坦な明るい島である。周辺にはクロマツやトベラなどがある。中央部は多数の梅の木が植栽され、各所にオブジェなどが配置されている。島の西側には釣堀センターなどがあるため訪れる人も多い。佐久島本島とは防波堤をかねた歩道があるので常時往来が可能である。ハムシ科についてはこれまでに7種が記録されている。

大島における既知種の概要

1) クビボソハムシ亜科の既記録種

アカクビボソハムシのみである。愛知県ではほぼ全域に分布する普通種である。

2) サルハムシ亜科の既記録種

ドウガネサルハムシのみである。青緑色と赤銅色の個体がみられるが、本島では赤銅色の方が多い。三河湾では各島にふつうである。

3) ヒゲナガハムシ亜科の既記録種

ウリハムシ、ホタルハムシの2種である。ホタルハムシは普通種であるが、佐久島本島からはまだ見出されていない。

4) ノミハムシ亜科の既記録種

サシゲトビハムシのみである。ヌルデから得られる種であるが、愛知県での記録は、三河湾の日間賀島(山崎・浅岡1993)と、定光寺(穂積1966)があるにすぎない。佐久島本島からはまだ見出されていない。

5) カメノコハムシ亜科の既記録種

スキバジンガサハムシ、カメノコハムシの2種である。スキバジンガサハムシは三河湾では佐久島本島でも記録がある。カメノコハムシは、ほとんどの島から記録されている普通種である。

大島における追加種

1. ヒメキバナサルハムシ *Pagria signata* (Motschulsky,1858)

体長1.8-2.4mm。海岸地方の草地に多い種である。佐久島本島では記録のある普通種であるが、大島



図3 大島(前方)へは遊歩道で渡ることができる

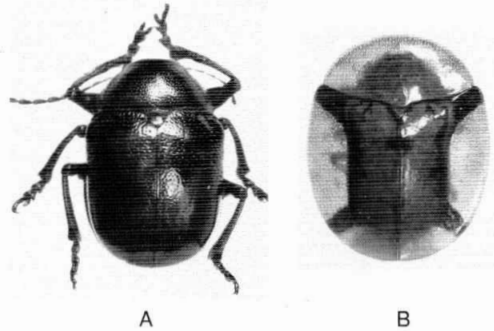


図4 A:イモサルハムシ B:スキバジンガサハムシ

からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：27-IX-2009,3頭.

2.イモサルハムシ *Colasposoma dauricum* Mannerheim,1849 [図4A]

体長5.3-6.0mm。佐久島本島ではすでに記録がある。大島では食草のヒルガオが多くあり、多数の個体が見られた。ここで得られた個体は原型のほか、青色型 *f.cyanea* が半数の11個体であった。佐久島本島ではすでに記録があるが、大島からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：7-VI-2009,22頭.

3.クロウリハムシ *Aulacophora nigripennis* Motschulsky,1857

体長5.8-6.3mm。三河南部にはきわめてふつうの種である。ウリ類を食害し、成虫越冬をする。佐久島本島ではすでに記録があるが、大島からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：7-VI-2009,1頭; 10-IX-2009,1頭.

4. カミナリハムシ *Altica cyanea* (Weber,1801)

体長4.8-5.5mm。本州以南から東南アジアにかけて分布する南方系の種である。得られた個体は4.5

mmで小形のものであった。佐久島本島からはすでに記録があるが、大島からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：27-IX-2009,2頭。

5. ナスナガスネトビハムシ *Psylliodes angusticollis* Baly,1874

体長2.0-2.5mm。佐久島本島をはじめ愛知県のはほぼ全域で記録されている普通種である。佐久島本島からはすでに記録があるが、大島からはこれが初めての記録と思われる。

採集記録：7-VI-2009,2頭。

筒 島 (Thutsu-jima)

筒島は別名弁天島 (Benten-jima) とも呼ばれ、佐久島本島の東南部に位置する属島である。モチノキヤクスノキの巨木を交えた暖帯林が繁茂し最高地点に弁財天が祀られている。本島のハムシ科はこれまでに2種が記録されているにすぎないが、調査が不十分のため今後に明らかにされる種は少なくないものと思われる。



図5 大島から臨む筒島（弁天島）の全貌

筒島における既知種の概要

1) ヒゲナガハムシ亜科の既記録種

クロウリハムシのみである。三河南部にはふつうでウリ類を食害する。佐久島本島ではすでに記録がある。

2) カメノコハムシ亜科の既記録種

ヒメカメノコハムシのみである。従来のヒメカメノコハムシ *Cassida pioerata* Hopeとして記録されていたものは佐久島本島と同様である。本島産の既記録のものは無紋のものであったので、イノ

コズチカメノコハムシ *Cassida japana* Balyとす。確認種は2種のままである。

筒島における追加事項

1. イノコズチカメノコハムシ *Cassida japana* Baly,1874

各地に多い普通種である。黒斑なしの個体を従来ヒメカメノコハムシとして記録されていたものである。最近の分類上の見解からこの種名で記録する。

採集記録：7-VI-2009,1頭。

まとめ

佐久島およびその属島のオshima、筒島のハムシ科の調査により以下のようになった。

佐久島では既記録の32種に新たに7種が加わり39種となった。大島では既記録の7種に新たに5種が加わり12種となった。筒島では既記録の2種のまま追加種はなかったが、イノコズチカメノコハムシの種名で改めて記録した。

文 献

1. 大野正男 (1971) 日本産ハムシ科名鑑. 東洋大学紀要 教養課程編(自然科学); (18), 31-126.
2. 木元新作・滝沢春雄 (1994) 日本産ハムシ類成虫・幼虫分類図説. 東海大学出版会, 539pp.
3. 佐久島会 (2008) 佐久島・三河湾島々の植物, 295pp. (佐久島会事務局).
4. 山崎隆弘・浅岡孝知 (1993) 三河湾島の昆虫, 469pp. (自費出版).
5. 山崎隆弘・穂積俊文 (1990) 愛知県のハムシ科. 愛知県の昆虫(上): 434-460. (愛知県).

豊田市六所山のコメツキムシ若干種の記録

大平 仁 夫

豊田市坂上町にある六所山(標高611m)は、自然植生がよく残されている山として知られており、山麓には豊田市総合野外センターが設備されている。ここから記録されているコメツキムシ類はすでに30種近くになり、低山に比して種類はきわめて豊富である。

筆者は豊田市史の資料調査のため、久しぶりにここを訪れる機会を得て、山麓を中心に調査する機会を得たが、別に戸田希尚氏がLEDを光源に使用した樹幹設置型のFITを設置して得られた種の提供を頂いたの

で、ここに併せて記録した。なお、六所山未記録と思われる種名の後に*印を付した。

本文を草するにあたり、貴重な資料の提供を頂いた戸田希尚氏、採集に同行して支援をいただいた山崎隆弘氏に心から感謝の意を表する。

種の記録

1. *Pectocera fortunei fortunei* Candèze, 1873
ヒゲコメツキ
調査標本：1♂, 19-V-09, 大平。
豊田市教育委員会(1978)；岩月ほか(1979)に記録されている。
2. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861) サビキコリ
調査標本：2♂♂, 19-V-09, 大平。
豊田市教育委員会(1978)に記録されている。
3. *Lacon (Alaotypus) maeklinii* (Candèze, 1865)

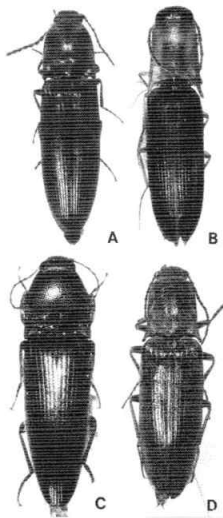


図1. A. ヤマトカネコメツキ, ♀(体長12mm)；B. ホソツヤケシコメツキ, ♀(体長8.5mm)；C. ヒメクシコメツキ, ♀(体長17mm)；D. ホソシモフリコメツキ, ♂(体長13mm)

オオサビコメツキ*

調査標本：1♀, 11-VII-09, 戸田。

主として奥三河の山地に分布しているが、個体数は少ない。

4. *Limoniscus yamato* Kishii, 1998

ヤマトカネコメツキ*(図1, A)

調査標本：1♂2♀♀, 大平。

山地性の種で、愛知県では主として新城市以北の山岳地に分布している。古い記録で*L.nipponensis*(ニホンカネコメツキ)として記録されている。体長は12mm内外で暗い真鍮色の光沢を有する。(旧)豊田市内からはこれが最初の記録である。

5. *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus*

(Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ

調査標本：1♂1♀, 11-VII-09, 戸田。

岩月ほか(1979)に記録されている。

6. *Stenagostus umbratilis* (Lewis, 1894)

オオツヤハダコメツキ*

調査標本：2♀♀, 11-VII-09, 戸田。

雑木林に分布し、成虫は灯火によく飛来するので、そこで見出されることが多い。

7. *Actenicerus kiashianus* (Miwa, 1928)

ホソシモフリコメツキ*(図1, D)

調査標本：1♂, 19-V-09, 大平。

主として三河山岳地帯に分布しており、(旧)豊田市からはこれが最初の記録である。体長は12～13mm内外で、真鍮色の光沢を有する細長い種である。

8. *Doleorosomus gracilis* (Candèze, 1873)

キバネホソコメツキ

調査標本：2♂♂2♀♀, 19-V-09, 大平。

大平(1984)や大平(2005)に記録されている。

9. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878)

カバイロコメツキ

調査標本：5exs., 19-V-09, 大平。

岩月ほか(1979)や大平(2004)に記録されている。

10. *Agaripenthes helvolus* (Candèze, 1873)

ヒメホソキコメツキ*

調査標本: 9♀♀, 11-VII-09, 戸田。

山林の花上で見られる。(旧)豊田市からは田中ほか(2005)に猿投山から記録されている。

11. *Hyekpnetes pallidus pallidus* (Lewis, 1894)

ホソツヤケシコメツキ* (図1, B)

調査標本: 4♂5♀♀, 11-VII-09, 戸田。

暖地系の種である。(旧)豊田市からは田中ほか(2005)に猿投山, 松平町から記録されている。体長は9mm内外, 黄褐色をした細長い種である。

12. *Melanotus (Melanotus) legatus legatus*

Candèze, 1860 クシコメツキ*

調査標本: 1♂, 11-VII-09, 戸田。

雑木林や畑地に多い普通の種である。(旧)豊田市からは田中ほか(2005)に猿投山ほか多くの産地が記録されている。

13. *Melanotus (Melanotus) legatoides* Kishii, 1975

ヒメクシコメツキ* (図1, C)

調査標本: 5♀♀, 11-VII-09, 戸田。

森林性で個体数は多くない。(旧)豊田市からは田中(2005)に猿投山や西町から記録されているが、このように一度に多くの個体が見られるのは少な

い。一般外形は前種に類似しているが、触角の第4節が第2, 3節を合わせたものより短いので識別できるし、雄交尾器の外形も異なっている。

ま と め

ここに記録した13種のうち、*印を付したこの山から未記録は7種であった。このような里山に近い低山から今までの記録も含めて30種以上も記録されている山は少ない。こんご採集方法や季節を変えて調査すれば、さらに多くの種が見出されるものと思われ、豊田市内でもコメツキムシ類にとっては魅力のある山であると思われる。

引用文献

- 豊田市教育委員会(1978)豊田市史六, 資料(自然): 166215.
 岩月学ほか(1979)豊田の昆虫I: 1-83. (豊田市教育委員会)
 大平仁夫(1984)三河地方のコメツキムシ分布記録(I). 三河の昆虫, (31): 165.
 大平仁夫(2004)山中 洋氏採集の三河地方のコメツキムシ(2003年). 三河の昆虫(51): 579-580.
 田中 蕃ほか(2005)豊田市自然環境基礎調査報告書, VIII (昆虫類): 181-306.

岡崎市蓬生町でクロオビマグソコガネを採集

鈴木 栄 二

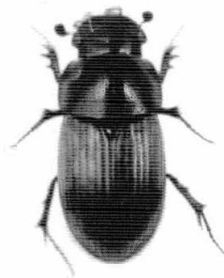
筆者は岡崎市内では記録の少ないと思われるクロオビマグソコガネを岡崎市蓬生町で採集したのでここに記録する。愛知県内では、本宮山が多産地として知られており、早春に採集されている。

1. 採集記録

クロオビマグソコガネ

Aphodius (Acrossus) unifasciatus

岡崎市蓬生町(標高170m)。



6exs., 29-III-2009 サルの糞で採集。

18exs., 29-IV-2009 牛糞トラップで採集。

2. 参考・引用文献

- 大平仁夫(1985)新編 岡崎市史14 自然
 岡崎市の甲虫類, P1044.
 愛知県(1990)愛知県の昆虫(上) 愛知県農地林務部自然保護課。
 川井信矢他(2005)日本産コガネムシ上科図説。
 第1巻, 食糞群, P112.

佐久島のコメツキムシの記録

大平 仁 夫

佐久島は三河湾に面した一色町の沖にある三河湾最大の島で、自然がよく残されており、大島と弁天島が隣接している。この島の昆虫相はすでに山崎・浅岡(1933)、浅岡(2008)がまとめており、他にも若干の報告がある。コメツキムシについては現在17種記録されている。

2008年の三河昆虫研究会の総会でこの島を調査することになり、2009年4月24日に調査し、11種を見出し、内4種(3, 4, 7, 10)はこの島から未記録であった。また、採集日は2009年4月24日で、採集者は大平であるので、本文中での個々の記録は省略した。末尾にこの調査に支援を頂いた山崎隆弘氏と浅岡孝知氏に心から感謝の意を表す。(未記録種には学名の末尾に*印を付した)

種の目録

1. *Pectocera fortunei fortunei* Candèze, 1873
ヒゲコメツキ(1♂2♀♀)
佐久島からは山崎・浅岡(1993)が記録している。
2. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus*
サビキコリ(Motschulsky, 1861) (1♂1♀)
佐久島からは山崎・浅岡(1993)が記録している。
3. *Agrypnus (Colaulon) tsukamotoi* (Kishii, 1956)
ハマベヒメサビキコリ(1ex.)*(図B)
海浜性の種である。佐久島からはこれが最初の記録である。
4. *Agrypnus (Colaulon) hypnicola* (Kishii, 1964)

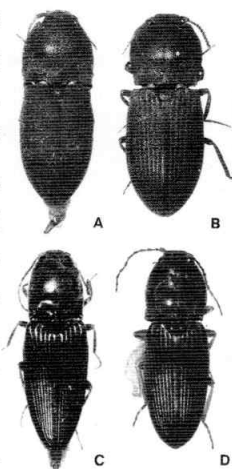


図1. A, コガタサビキコリ(体長7.5mm); B, ハマベヒメサビキコリ(体長10mm); C, アカシハナコメツキ(体長8mm); D, アカシコハナコメツキ(体長5mm)

コガタヒメサビキコリ(1ex.)*(図A)

三河地方の内陸部では点々と記録されているが、三河湾の島嶼からはこれが最初の記録である。小・中学校の校庭で見出された。

5. *Melanotus (Spheniscosomus) cete cete*
Candèze, 1860 アカアシオオクシコメツキ(2♂♂4♀♀)
普通種である。佐久島からは山崎(1968)が最初に記録している。
6. *Melanotus (Melanotus) legatus legatus*
Candèze, 1860 クシコメツキ
佐久島では普通の種である。
7. *Melanotus (Melanotus) lewisi lewisi*
Schenkling, 1927 ルイスクシコメツキ*(1♀)
各地に分布しているが、個体数は少ない。三河湾の島嶼ではこれが最初の記録である。
8. *Melanotus (Melanotus) annosus* Candèze, 1865
クロツヤクシコメツキ(1♂)
三河湾島嶼ではこの佐久島が唯一の産地で、山崎・浅岡(1993)が*記録している。
9. *Melanotus (Melanotus) senilis senilis* Candèze, 1865
クロクシコメツキ(3♀♀)
佐久島からは山崎(1968)が最初に記録している。
10. *Displatynychus adjutor* (Candèze, 1873)
アカシハナコメツキ(1♂)*(図C)
各地に分布する雑木林性の種であるが、佐久島からはこれが最初の記録である。
11. *Paracardiophorus sequens sequens* (Candèze, 1873)
アカアシコハナコメツキ(3exs.)(図D)
海浜の砂地帯に分布する種であるが、現在では海浜の護岸工事や汚染で個体数が減少しており、愛知県のRDデータの準絶滅危惧種(NT)にランクされている。佐久島からは山崎・浅岡(1993)が記録している。

引用文献

浅岡孝知(2009) 三河湾・佐久島とその属島の昆虫の記録
(2009). 虫譜, 48(1): 43-45.

山崎隆弘(1968) 三河湾島嶼の昆虫類. 連絡会報,

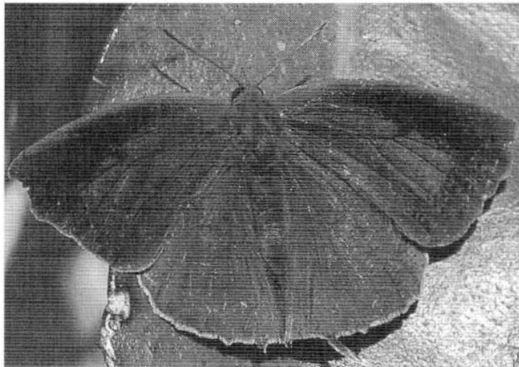
(4): 30-36. (三河昆虫研究会)

山崎隆弘・浅岡隆弘(1993) 三河湾・島の昆虫: 468頁

岡崎市で未記録の3種の昆虫について

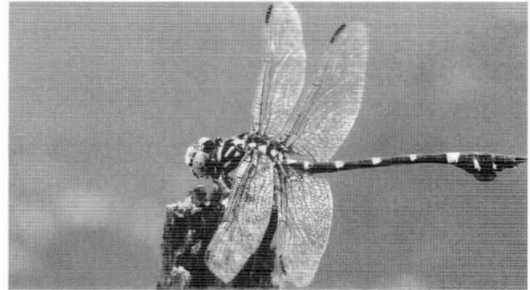
判 家 卓 司

筆者は岡崎市内で未記録と思われる3種の昆虫を見出して2009年にデジタルカメラで撮影した。撮影した種の確認については鈴木栄二、杉坂美典、大平仁夫先生に確認して頂き、記録に残すことを勧められたのでここに報告することにした。



ムラサキツバメ

撮影場所: 1雄1雌, 6-XII-2009, 岡崎市桜井寺町本郷。
本種は桜井寺山門の東近くで雌雄個体を確認して撮影した。写真に示したのは雄個体である。幼虫はマテバシイの新芽や若葉を食べることが知られている。



タイワンウチワヤンマ

撮影場所: 1雄, 20-VIII-2009, 岡崎市庄司田池。

最近北上が目されている暖地系の種であるが、岡崎市ではまだ知られていないと思われる。



セスジスカシバガ

撮影場所: 1雌, 27-IX-2009, 岡崎市榎山町。

「おおだの森」で、針葉樹の葉上に静止していた個体を撮影した。暖地系の種ではないが、幼虫はバラ科の茎に入って虫エイを作り、成虫はハチに擬態している種としても知られている。

蒲郡市でモンシロモドキを確認

判 家 卓 司

本種は暖地系の種で、三河地方では新城市や豊橋市などから記録されている。蒲郡市からはまだ知られていないと思われる。本種は潮見展望台付近のイタドリの花に飛来していた。



撮影場所: 1ex., 蒲郡市設楽町の山林, 26-IX-2009.

伊藤六仁先生採集の東栄町の同翅目

浅岡孝知

「三河の昆虫・56号」で北設楽郡東栄町在住の伊藤六仁博士より、貴重な東栄町各地で採集された昆虫の内、カ

メムシ類・異翅目についての報告をさせていただいた。今回は同翅目について報告する。これまで東栄町の記録は、堀・原田・浅岡(1990)に



自宅前での伊藤六仁博士

一部地区の例だけであり、全体をまとめられたことがなかった。以下は目録と若干の種説明である。機会を与えてくださった同先生に対して感謝申し上げる。採集者は全て伊藤先生である。目録中の採集例の末尾の(L)はライトトラップを表している。

目録

ヒシウンカ科Cixiidae

1) ヨスジヒシウンカ

Reptalus quadricinctus Matsumura, 1914

調査標本：上小田, 3-VII-1998.1ex.

ハネナガウンカ科Derbidae

1) アカハネナガウンカ

Diostrombus politus Uhler, 1896

調査標本：上小田, 2-VIII-1998.1ex.

コガシラウンカ科Achilidae

1) ナワコガシラウンカ

Rhotala nawae Matsumura, 1914

調査標本：上小田, 21-V-1996.2exs.L. 26-IV-2005.1ex.

2) スジコガシラウンカ

Rhotala vittata Matsumura, 1907

調査標本：眞地, 13-VI-1997.1ex. 18-VII-1997.1ex.L.

テングスケバ科Dictyopharidae

1) テングスケバ *Dictyophara patruelis* (Stal, 1859)
調査標本：上小田, 15-IX-1999.1ex.

マルウンカ科Issidae

1) マルウンカ *Gergithus variabilis* (Butler, 1875)

調査標本：眞地, 13-VI-1997.1ex.; 上小田, 9-V-1999.1ex.

2) カタビロクサビウンカ

Issus harimensis Matsumura, 1913

調査標本：御園, 13-VII-1995.2exs.

アオバハゴロモ科Flatidae

1) アオバハゴロモ

Geisha distinctissima (Walker, 1858)

調査標本：上小田, 2-VIII-1997.1ex.; 眞地, 10-IX-1997.1ex.L.

ハゴロモ科Ricaniidae

1) スケバハゴロモ *Euricania fascialis* (Walker, 1858)

調査標本：下田, 16-VIII-1995.1ex.L.; 上小田, 23-VIII-2003.1ex.

2) ベッコウハゴロモ

Orosanga japonicus (Melichar, 1898)

調査標本：下田, 1-VIII-1995.1ex.L.; 上小田, 25-VIII-2003.1ex.

セミ科Cicadidae

1) アブラゼミ

Graptosaltria nigrofuscata (Motschulsky, 1866)

調査標本：下田, 22-VII-1995.1 ♂. L. 19-VIII-1995.1 ♀.

2) ツクツクボウシ

Meimuna opalifera (Walker, 1850)

調査標本：本郷, 11-IX-2001.1 ♀

3) ミンミンゼミ

Oncotympana maculaticollis (Motschulsky, 1866)

調査標本：上小田, 15-IX-2000.1 ♂

4) ニイニイゼミ

Platypleura kaempferi (Fabricius, 1794)

調査標本：下田, 22-VII-1995.1 ♀

5) ヒグラシ

Tanna japonensis japonensis (Distant, 1892)

調査標本：下田, 27-VII-1995.1 ♂. L.; 東園目, 5-VIII-1995.1 ♀

6) エゾゼミ *Tibicen japonicus* (Kato, 1925)

調査標本：柘の湖,21-VIII-1992.1♂,名場,13-VIII-1997.1♀

コガシラアワフキ科Cercopidae

1)コガシラアワフキ

Eoscartopis assimilis (Uhler,1896)

調査標本：金紫,7-VII-1995.1ex.

アワフキムシ科Aphrophoridae

1)マツアワフキ *Aphrophora flavipes* Uhler,1896

調査標本：上小田,1-VII-1992.1ex.

2)シロオビアワフキ

Aphrophora intermedia Uhler,1896

調査標本：長良,22-IX-1995.1ex.真地,10-IX-1997.1ex.L.

3)ホシアワフキ

Aphrophora stictica Matsumura,1903

調査標本：上小田,6-VII-1996.1ex.L.:21-VII-1996.1ex.L.

4)マダラアワフキ

Awafukia nawae (Matsumura,1904)

調査標本：名場,13-VIII-1997.1ex.L.真地,21-X-1997.1ex.L.

5)オオアワフキ

Nikkofukia galloisi Matsumura,1940

調査標本：下田,11-IX-1995.1ex.L.

6)ヒメモンキアワフキ

Tabiphora rugosa (Matsumura,1903)

調査標本：上小田,17-X-1996.1ex.13-X-1998.1ex.

7)モンキアワフキ

Yezophora flavomaculata (Matsumura,1904)

調査標本：上小田,13-X-1997.1ex.

ツノゼミ科Membracidae

1)トビイロツノゼミ

Machaerotypus sibiricus (Lethierry,1876)

調査標本：上小田,17-IV-1996.1ex.8-VI-1996.1ex.

28-V-2002.1ex. 28-V-2005.1ex.7-VI-2005.1ex.

ミミズク科Ledridae

1)ミミズク *Ledra auditura* Walker,1858

調査標本：下田,6-VIII-1995.1ex.L.上小田,26-VII-1996.1ex.L.

アオズキンヨコバイ科Issidae

1)アオズキンヨコバイ

Batracomorpha mundus (Matsumura,1912)

調査標本：上小田,25-V-1995.1ex.L.30-VI-1996.1ex.L.

クロヒラタヨコバイ科Penthimiidae

1)クロヒラタヨコバイ

Penthimia nitida Lethierry,1876

調査標本：上小田,2-VIII-1992.1ex.6-V-1996.1ex.

ブチミャクヨコバイ科Drabescidae

1)ブチミャクヨコバイ

Drabescus nigrifemoratus (Matsumura,1905)

真地,10-IX-1997.1ex.L.21-X-1997.2exs.

調査標本：名場,13-VIII-1997.1ex.

カンムリヨコバイ科Evacanthidae

1)キスジカンムリヨコバイ

Evacanthus interruptus (Linnaeus,1758)

調査標本：大入川,28-IX-1995.1ex.

2)オヌキヨコバイ *Onukia onukii* Matsumura,

1912

調査標本：名場,13-VIII-1997.1ex.L.

オオヨコバイ科Cicadellidae

1)ツマグロオオヨコバイ

Bothrogonia ferruginea (Fabricius,1787)

調査標本：御園,8-IX-1995.1ex.

2)オオヨコバイ *Cicadella viridis* (Linnaeus,1758)

調査標本：明神山,10-XI-1994.1ex.

3)マエジロオオヨコバイ

Kolla atramentaria (Motschulsky,1859)

調査標本：上小田,29-IV-1997.1ex.

ヨコバイ科Deltocephalidae

1)イナズマヨコバイ

Inazuma dorsalis (Motschulsky,1859)

調査標本：上小田,2-VIII-1997.1ex.

2)ツマグロヨコバイ

Nephotettix cincticeps (Uhler,1896)

調査標本：下田,29-VI-1995.1♂.L.7-VII-1995.1♀.L.

以上伊藤氏採集の同翅目は、18科36種を記録したことになる。

末尾ではありますが、伊藤先生には、快く文献や昆虫採集用品など多くの品々を三河昆虫研究会のほうに提供していただきました。ありがとうございました。

参考文献

- 1)堀・原田・浅岡(1990)愛知県同翅目愛知県の(上)愛知県
- 2)東栄町役場編(2007)東栄町史.東栄町.

西三河地域で記録が少ないトンボの記録

吉鶴 靖則¹⁾・川田 奈穂子¹⁾・高木 久²⁾

筆者は愛知県西三河地方を中心としてトンボ等の生態写真を撮影しており、その活動の中で重要と思われる種類を幾つか撮影しているので、ここに報告する。

オオイトトンボ等の愛知県の状況をご教示いただいたり、写真の同定内容をご確認いただいたりした成田茂生氏に、厚くお礼申し上げます。

イトトンボ科 (Coenagrionidae)

オオイトトンボ (図1)

Cercion sieboldii (Selys)

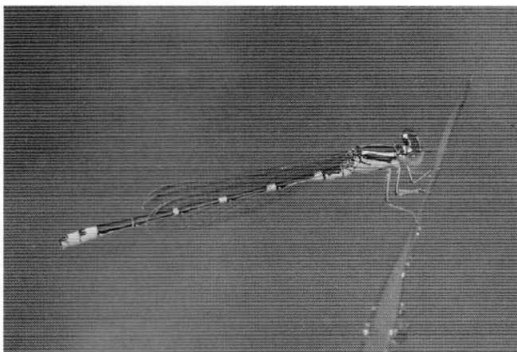


図1 オオイトトンボ ♂

豊田市市木町南山

(豊田市自然観察の森トンボの湿地) 29-VII-2009, 1♂, 目撃: 吉鶴・川田 (撮影)

発見翌日にかなり念入りに再探索したものの発見できず、その後も発見できていない。一度のみの記録であるため、偶産と考えられる。

愛知県では絶滅危惧Ⅱ類に指定され、発見地の旧豊田市では「過去に記録はあるが、絶滅の可能性が高い産地」とされている(吉田ほか 2009)。

それほど飛翔力が高いとは思えないことから近隣に生息地がある可能性が考えられる。近隣の新しい記録では、豊田市藤沢町で25-V-2002, 2♂ (小林 2005) がある。

サナエトンボ科 (Gomphidae)

タイワンウチワヤンマ (図2)

Ictinogomphus pertinax (Selys)



図2 タイワンウチワヤンマ ♂

10-VIII-2009, 1♂, 岡崎市小呂町 小呂池, 目撃: 川田 (撮影)

南方系の種で、分布域を拡大中といわれている。近年では1999年に渥美町伊良湖国民休暇村(現在の田原市中山町大松上に位置)の記録(鶴殿 2000)以外に正確な記録はなく、今後の動向が注目される。

トンボ科 (Libellulidae)

キトンボ (図3)

Sympetrum croceolum croceolum (Selys)

豊田市大池町汐取 鉛池, 18-X-2009 (初認), 1♂, 目撃: 高木; 27-X-2009, 1♂, 目撃: 高木 (撮影)

レッドデータブックあいち2002作成後に激減し(吉田 2004)、レッドデータブックの改訂で愛知県の絶滅危惧IB類に指定された。

発見地の旧豊田市は「過去に記録はあるが、絶滅の可能性が高い産地」とされている(吉田ほか 2009)。

鉛池での最初の記録は写真から同定した。その後10月19日、21日と発見できなかったが、27日に再発見し、捕獲確認した。再び訪れた11月2日以



図3 キトンボ♂

降は何度も調査したが確認できなかった。

2回の記録は池畔の同一地点で縄張りを持っていたこと、個体数が著しく少ないと想定される種類であること、記録が共にオス1頭であったこと、鉛池は外来魚が多産する劣悪な環境であったことから、鉛池での繁殖は考えにくく、同一個体ではないかと思われた。豊田市（旧藤岡町）に限られた池沼で少数が見られる（吉田ほか 2009）ため、

旧藤岡町から偶然飛来した可能性が考えられた。

引用文献

- 小林広成（2005）トンボ目，豊田市自然環境基礎調査報告書 資料編，112-119.
- 高崎保郎（2004）愛知県のトンボ相今昔，NAPI NEWS（300）：28592861.
- 鶴殿清文（2000）愛知県でタイワンウチワヤンマを採集，月刊むし（347）（2000年1月号）：44-45.
- 吉田雅澄（2004）愛知県産トンボの現状（レッドデータブックその後），NAPI NEWS（300）：2862-2864.
- 吉田雅澄・安藤 尚・高崎保郎（2009）昆虫類（トンボ目），愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2009 -動物編-：221-413.

ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキの採集例

蟹 江 昇

ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキ *Hypoganus miyatakei* Ohiraは本州、四国、九州から記録されているがあまり採集例の多くないコメツキである。本種は一般に原生林や大径木のある寺社林などに生息し、成虫は8月から9月にかけて現れ、主にスギやツガの大径木の樹皮の裂け目などに潜んでいる。



ることができたので記録する。本種は主に原生林中のツガの大径木の樹皮の割れ目から見いだした。

なお発表に際し本種の分布および愛知県内の記録についてご教示いただいた大平仁夫先生にお礼申し上げます。

採集データ：北設楽郡設楽町裏谷，2♂1♀.17.VIII-2008.; 同地 1♀.30-VIII-2008

引用文献

- 大平仁夫（1994）三河地方から採集されるコメツキムシについて（11）.佳香蝶,46（180）:41-42.
- 大平仁夫（1995）ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキ段戸裏谷で採集,三河の昆虫，(42):405

愛知県内では鳳来町（現新城市）阿寺（大平1994）、設楽町裏谷（大平1995.1996）の2例の記録がある。筆者は設楽町裏谷において4頭を採集す

旧豊田市で記録が少ない種類についての報告 (その3)

吉鶴 靖則・川田 奈穂子・小出 恭章

筆者は豊田市自然観察の森に勤務するレンジャーであり、自然観察の森とその周辺地域の調査を担当している。自然観察の森内と矢並湿地は基本的に採集禁止のため、必要に応じてわずかな個体数を採集確認する程度であるが、豊田市自然環境基礎調査報告書で記録が少ない種類などについて報告し、当地区の昆虫相の一資料としたい。

なお、採集地はすべて愛知県豊田市であるため県名と市名を省略した。採集者名、撮影者名がないものは、すべて吉鶴によるもので、その他は自然観察の森の関係者によるものである。採集した標本はネジレバネ類のみ同定者の下にあり、他はすべて豊田市自然観察の森に保管されている。採集以外による確認行為は個体データの末尾にその旨を記した。

末尾であるが、一部の種類を同定いただき、さまざまな助言をいただいた戸田尚希氏(コウチュウ類)、小俣軍平氏(陸生ホタル)、矢崎充彦氏(カメムシ類)、中瀬悠太氏(ネジレバネ類)、記録写真を提供いただいた三井美沙子氏、キノコを同定いただいた木村修司氏に厚くお礼申し上げます。

トンボ目 ODONATA

アオイトトンボ科 Lestidae

オツネトンボ

Sympecma paedisca (Brauer)

市木町南山,7-IV-2009,1♀ (撮影:川田)

ヤンマ科 Aeshnidae

オオルリボシヤンマ

Aeshna nigroflava Martin

市木町南山,16-IX-2009,1♂ (撮影:小出)

サナエトンボ科 Gomphidae

オグマサナエ

Trigomphus ogumai Asahina

東山五丁目,27-IV-2008,1♂ (撮影:三井美沙子)

エゾトンボ科 Cordulidae

タカネトンボ

Somatochlora uchidai Förster

京ヶ峰二丁目,27-IX-2007,1♂;京ヶ峰二丁目,22-IX-2009,1♂;東山五丁目,23-IX-2009,1♂ (撮影:川田)

当地では毎年普通に見られる。

トンボ科 Libellulidae

ナツアカネ

Sympetrum darwinianum (Selys)

東山五丁目,24-IX-2009,1♂ (撮影:三井美沙子)

近年記録が激減しており、ここ数年は当地でも年に一度ぐらいの目撃である。

コノシメトンボ

Sympetrum baccha matutinum Ris

市木町南山,22-VIII-2008,1♂ (撮影:川田)

ネキトンボ

Sympetrum speciosum Oguma

市木町南山,9-IX-2009,1♂ (撮影:川田)

リスアカネ

Sympetrum risi risi Barteneff

京ヶ峰二丁目,1-IX-2008,1♂ (撮影:川田);

市木町南山,29-VIII-2009,1♂ (撮影:川田)

ナナフシ目 PHASMIDA

ナナフシ科 Phasmatidae

ヤスマツトビナナフシ

Micadina yasumatsui Shiraki

京ヶ峰二丁目,10-VII-2009,1ex. (採集:小出)

カメムシ目 HEMIPTERA

ハネナガウンカ科 Derbidae

マエグロハネナガウンカ (図1)

Zoraida pterophoroides (Westwood)

市木町南山, 11-VII-2009, 1ex. (採集: 山内徹)
愛知県では津具村〔堀ほか1990・旭町(浅岡,
2001)の記録〕に続き3例目のようである。

シリアカハネナガウンカ(図2)

Zoraida horishana Matsumura

京ヶ峰二丁目, 24-IX-2009, 1ex.

近隣では豊田市建築部住宅課(1994)による採
集記録(幸海町~穂積町, 27~29-IX-1993)がある。
愛知県で2例目の記録のようである。

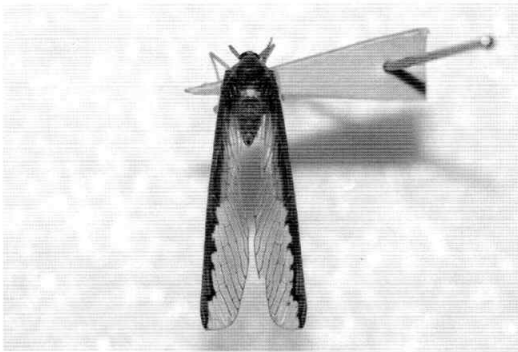


図1 マエグロハネナガウンカ

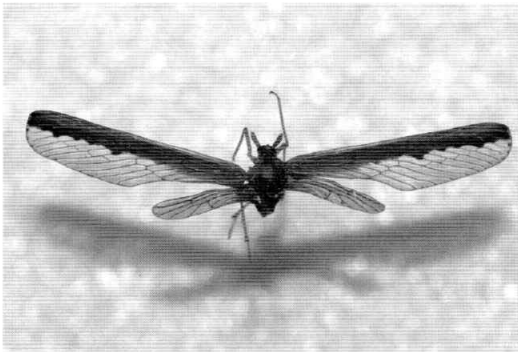


図2 シリアカハネナガウンカ

テングスケバ科 Dictyopharidae

ツماغロスケバ

Orthopagus lunulifer Uhler

京ヶ峰二丁目, 9-X-2009, 1ex. (採集: 小出)

ツチカメムシ科 Cydnidae

ヨコヅナツチカメムシ

Adrisa magna (Uhler)

京ヶ峰二丁目, 19-V-2009, 1ex.

クヌギカメムシ科 Urostylidae

サジクヌギカメムシ

Urostylis striicornis Scott

京ヶ峰二丁目, 9-XII-2008, 1♂

本種の記録は県下では少ないようである。類似
種のクヌギカメムシ、ヘラクヌギカメムシとも、
当地で見られる。

ネジレバネ目 STREPSIPTERA

ハチネジレバネ科 Stylopidae

スズメバチネジレバネ

Xenos moutoni Buysson

京ヶ峰三丁目, 4-X-2009, 1ex. (採集: 小出)

オオスズメバチに寄生していたものである。

コウチュウ目 COLEOPTERA

ナガヒラタムシ科 Cupedidae

ナガヒラタムシ

Tenomerga mucida (Chevrolat)

古瀬間町大是, 12-VI-2009, 1ex.

オサムシ科 Carabidae

キノコゴミムシ(図3)

Lioptera erotyloides Bates

東山町七丁目, 12-VI-2009, 1ex.

愛知県の記録は名古屋昆虫同好会発行の佳香蝶
に投稿中のもの以外にないと耳にしており、県下
では2例目のようである。ハカワラタケと思われ
るキノコに群がっているタイショウオオキノコ
の中に1頭だけ確認した。



図3 キノコゴミムシ



図4 キョウトアオ
ハナムグリ

ハネカクシ科 Staphylinidae

サビハネカクシ

Ontholestes gracilis (Sharp)

市木町南山, 29-VIII-2009, 1ex.

コガネムシ科 Scarabaeidae

クロカナブン

Rhomborrhina polita Waterhouse
京ヶ峰二丁目,10-VIII-2008,1ex. (撮影)
アオハナムグリ
Cetonia roelofsi (Harold)
京ヶ峰二丁目,26-V-2009,1ex.
キョウトアオハナムグリ (図4)
Protaetia lenzi (Harold)
京ヶ峰二丁目,15-VII-2009,1ex. (採集:中尾文香)
ホタル科 Lampyridae
ムネクリイロボタル
Cyphonocerus ruficollis Kiesenwetter
市木町赤根,31-V-2009,1ex.幼虫 (撮影)
クロマドボタル
Lychnuris fumosa (Gorham)
京ヶ峰二丁目,26-VI-2009,1ex.
オオオバボタル
Lucidina accensa Gorham
東山町五丁目,25-VI-2008,1ex.;東山町五丁目,19-VI-2009,1ex. (採集:川田);京ヶ峰二丁目,28-VI-2009,1ex.
ツチハンミョウ科 Meloidae
メノコツチハンミョウ
Meloe menoko Kōno
市木町南山,6-XI-2009,1♂1♀ (採集:小出)
カミキリムシ科 Cerambycidae
ヤツボシハナカミキリ
Leptuna arcuata mimica Bates
京ヶ峰二丁目,12-VI-2009,1ex.
ハスオビヒゲナガカミキリ
Cleptometopus bimaculatus (Bates)
京ヶ峰二丁目,11-VII-2009,1ex.
タテジマカミキリ
Aulaconotus pachypezoides Thomson
市木町南山,4-V-2008,1ex. (撮影:川田)
ハムシ科 Chrysomelidae
ヒゴトゲハムシ
Argopistes coccinelliformis Csiki
市木町南山,22-IV-2009,1ex.
ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae
ナガフトヒゲナガゾウムシ
Xylinada striatifrons (Jordan)

京ヶ峰二丁目,15-VIII-2009,1ex. (採集:水野マリ子)

チョウ目 LEPIDOPTERA

セセリチョウ科 Hesperidae
アオバセセリ
Choaspes benjaminii japonica (Murray)
京ヶ峰二丁目,20-IX-2009,1ex. (撮影:川田)
当地初記録であり、食草も近くで確認できていないことから、偶産種と思われる。

ハチ目 HYMENOPTERA

アリバチ科 Mutillidae
トゲムネアリバチ
Squamulotilla ardescens (Smith)
市木町南山,22-X-2009,1ex.
ハキリバチ科 Megachilidae
オオハキリバチ
Chalicodoma sculpturalis (Smith)
京ヶ峰二丁目,10-IX-2009,1ex. (採集:小出)
コシブトハナバチ科 Anthophoridae
タイワンタケクマバチ
Xylocopa tranquebarorum tranquebarorum (Swederus)
市木町南山,16-VI-2007,1ex. (撮影);市木町南山,20-V-2009,1ex.
近年矢作川流域で増加中の外来種で、当地でもかなり増加した印象をうけている。

参考文献

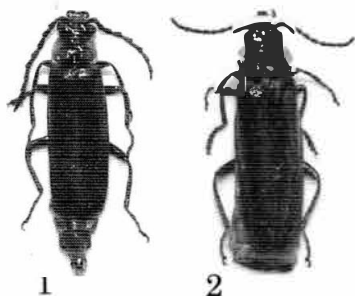
浅岡孝知 (2001) 旭町のカメムシ目、旭町の昆虫: 65-84.
(財団法人旭高原自然活用村協会)
堀義宏・浅岡孝知・原田猪津夫 (1990) 愛知県の類虫亜目。愛知県の昆虫 (上): 105-122.
豊田市建築部住宅課 (1994) 幸海町・穂積町地区宅地造成工事に係る自然環境調査報告書。平成6年3月。豊田市建築部住宅課。

愛知県産ホタルジョウカイの記録

桐山 功

ホタルジョウカイ *Cantharis*(*Telephorus*) *heleocharis* M. SATO, OKUSHIMA et ISHIDA は、2002年に三重県津市白山町四季のさとを模式産地として記載された種であり、副膜式標本は三重県津市白山町四季のさと、三重県伊賀上野市法花、三重県青山高原、三重県青山町霧生、愛知県設楽町裏谷、長野県戸隠村、福島県飯舘村、福島県楡町と青森県六ヶ所村田面木沼・市柳沼から採取されている。原記載の記録から見ると、本種は中部地方から東北地方にかけての湿原に僅かずつ生息するように思える。

最近、瀬戸市の蟹江昇氏から筆者に恵与された



豊田市小田木町産のホタルジョウカイ (1.♂固体; 2.♀固体)

標本中に、本種が見出された。筆者もその後、豊田市稲武小田木町へ赴き、同種を採集することができたので、模式産地以外からの記録としてこれを報告したい。

尚、蟹江氏はすべての個体を、湿原上のスウィーピングによって採取されたとのことであったが、筆者は湿原脇の低木をビーディングして採集した。

豊田市足助御内町田之士里湿原, 1♂1♀, 6-V-2008, 蟹江昇採集

豊田市稲武黒田町, 1♂, 18-V-2008, 蟹江昇採集

豊田市稲武小田木町, 1♂, 11-V-2009, 桐山功採集

豊田市稲武小田木町, 1♀, 1-VI-2009, 桐山功採集

引用文献

M.Sato, Y. Okushima & K. Ishida, 2002. Japanese species of the genus *Cantharis* Linnaeus (Col. Cantharidae). Ent. Rev. Japan. 57(2):205-217.

オオズセダカコクヌストの採集例

蟹江昇、戸田尚希

オオズセダカコクヌスト *Thmalus laticeps* Lewis はおもにツガサルノコシカケなどの多孔菌類に集まり、自然度の高い森林から見つかる。それほど珍しい種ではなく、近隣の県では比較的容易に見つけることができる。しかしながら愛知県からの採集例は無く未記録となっている。筆者ら



は設楽町裏谷および豊田市稲武町面の木峠において本種を採集することができたので報告する。

(採集データ) 豊田市稲武町面ノ木峠, 27-VII-2008. 1ex.

戸田採集; 設楽町裏谷, 14-VII-2009. 2exs. 蟹江採集; 設楽町裏谷ではツガの倒木に生じたツガサルノコシカケより、面の木峠では倒木下面より得た。

ユリクビナガハムシとタイワントビナナフシの再報告

岩 月 学

筆者は末尾の文献に記録した表記の2種について、そのごに若干の観察記録が得られたのでここに追加記録をすることにした。

1. ユリクビナガハムシ

Lilicercis merdigera (Linne) (写真1)

(I) 生息地の確認：

◇「岡崎市額田地域」雨山町雨山ダムの事務所駐車場南斜面 (11-VI-2007, 幼虫4); 鍛埜町の民家(里山の中腹部)(29-VII-2007, 成虫15頭)。

◇「豊田市の下山地区」東大林町三河高原牧場キャンプ場入口売店(23-V-2008, 成虫4頭); 花沢町妙楽苑観音像台座(23-VI-2009, 成虫2頭)。

岡崎市雨山町は市の東南部にあつて、豊川市中心部に接し、鍛埜町は市の東北部である。豊田市花沢町は国道301号沿いで、松平町に近く、東大林町は下山地区の北部にある。このことから、本種は少なくとも西三河山地の中央地区くらいまでは生息していることになる。



写真1.

ユリクビナガハムシの幼虫(雨山ダム：11-VI-2007)

(II) 食草について

上記のうち、東大林町はヤマユリ、他はタカサゴユリに付いていたものである。ヤマユリは、店の看板にと北設楽郡から移植したものがそうである。蕾や茎の先端部は柔らかそうで、良い食草のように思われる。

2. タイワントビナナフシ

Sipylloidea sipylus Westwood (写真2)

◇岡崎市八ツ木町の低い里山の2007年の発見場所とほとんど同じところで、若幼虫を3頭見出した(16-VII-2008, 幼虫3exs.); 上記と同じ場所の近くで幼虫1頭を見出した(5-VIII-2008, 幼虫1ex.); 2007年の発見場所とほとんど同じ場所で成虫1頭を確認した(22-IX-



写真2.

タイワントビナナフシの幼虫(2008, 成虫1ex.); (八ツ木町, 9-X-2009)

2007年の発見場所近くで成虫1頭が飛び立つのを目撃する(2-IX-2008, 成虫1ex.); 前記の発見場所から300mほど離れた別の尾根道の、スギヤシなどが生えた草地状の場所で、幼虫を確認した(9-X-2009, 幼虫1ex.)。

以上、計画的な調査結果ではないが、岡崎市八木町ではタイワントビナナフシが定着して繁殖しているとみてよいと考えられる。

末尾に、タイワントビナナフシについて種々ご指導をいただいた岡田正哉氏に感謝の意を表する。

引用文献

岩月 学(2006) ユリクビナガハムシの生息の確認。

三河の昆虫, (53): 627-629.

岩月 学(2008) タイワントビナナフシ岡崎市に生息。

三河の昆虫, (55): 678.

安城市のウシカメムシの記録

小 鹿 享

ウシカメムシ *Alcimocoris japonensis* (Scott, 1880) は、安城市内ではあまり見かけない昆虫で、新編安城市史資料編自然に伴って発行された動物目録(2005)にも、本種の名前は見当たらない。

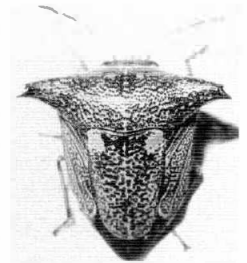
筆者は勤務する安城市立今池小学校において、本種を記録しているので報告する。

《データ》2009年10月15日 ウシカメムシ 1頭目撃(性別不明)安城市今池町 安城市立今池小学校。

場所は名鉄本線新城駅から南に400mぐらい南下したところで、職員室の玄関の壁にとまっていたもので、玄関が開いているときに飛来したと考えられる。1年ほど前にも、同じ職員室の中に入り込んでいる個体を観察(記録未発表)しており、この地域では必ずしも稀ではないのかも知れ

ない。あるいは、分布拡大の結果、西三河地方に侵入してきた可能性もあり、今後の動態が注目される。

最後になりましたが、本報告の個体の発見時に、写真撮影にご協力いただいた安城市立今池小学校教諭の吉田綾子さんに感謝いたします。



2009年10月15日
安城市今池町産

引用文献

安城市史自然編目録 動物(2005)安城市史編纂委員会
自然部会, 安城市。

ミヤマアカネを岡崎市で生息確認

柵 木 宗 孝

ミヤマアカネ (*Sympetrum pedemontanum elatum*) は雌雄とも4枚の翅の末端近くに褐色の帯状斑を有し、成熟すると雄の縁紋や翅脈までも赤くなる美しい種である。

本種の生息地は、平野や丘陵地や低山地であるが、圃場や周辺の水路の整備(コンクリート張り)などで幼虫の生息する水路がなくなり、全国的に平野部では本種を見ることが少なくなっている。岡崎市では、鈴木(1985)以後の分布報告はない。

このたび見出された生息地は、額田地域の東河原町の谷間に沿って流れる溪流の周辺に点在する農耕地で、幼虫はまだ確認していないが、この水系周辺の緩やかな小流に発生していると思われるので、今後生息範囲や幼虫の生息環境についても調査する予定である。額田地域にはこのような自

然環境が他にも多く残されているので、この自然が消えて行くことがないように、見守って行きたいと思う。

終わりに、調査に同行して支援して頂いた、

山本英治氏に感謝の意を表する。

調査標本: 1♀, 岡崎市東河原町, 14-VII-2009, 柵木採集; 1♂, 岡崎市雨山町, 28-IX-2009, 柵木採集。その他、飛翔個体は多く確認している。

参考文献

鈴木栄二(1985)新編岡崎市史(岡崎市の動物-岡崎市のトンボ): 811-837(岡崎市)
安藤 尚(2009)アカトンボ-愛知と岐阜の記録: 1-122。



写真, 東河原町で、葉上に静止中のミヤマアカネの雌。(18-VII-2009, 柵木撮影)

フタモンウバタマコメツキを伊良湖岬で採集

大平仁夫・山崎隆弘

フタモンウバタマコメツキ(*Cryptalaus larvatus pini*)は、愛知県に分布する暖地系の種として荒川(1951)が新城市舟着山から記録してから、各地で記録されており、分布の概要は大平(1993)が報告している。しかし、渥美半島でのもっとも南の記録は浅岡(2005)による田原市(旧田原町)の藤七原湿地からの記録(8-V, 2004)があるのみである。

筆者の一人である山崎は、かねてから本種のこの地域の分布に注目して調査をしていたが、2010年1月30日に先端の国民宿舎周辺の松枯の樹皮下から1頭の越冬成虫を見出し、続いて2月13日に山崎が1頭、大平が1頭の成虫を見出した。これで長年の分布記録のない謎は解消したが、ここでの本種の個体数は少なく、通常は越冬場所には、最終幼虫の脱皮殻が残されていて、ウバタマコメツキでは浅い蛹室が存在するが、本種では脱皮殻もそ

こで蛹化した痕跡もなく、蛹化場所は別のところにあつて、松の樹皮下の隙間は越冬に利用していたように思われるので、さらに詳しい調査が必要である。

調査標本：lex., 田原市中山町休暇村, 30-I, 2010, 山崎採集；lex. 同上, 13-II, 2010, 山崎採集；lex., 同上, 大平採集。

引用文献

浅岡孝知 (2005) 藤七原湿地の昆虫。藤七原湿地植物群落調査報告II: 29-48. (愛知県田原市教育委員会)
荒川鳳三 (1951) 三河地方の数種の昆虫について。虫譜, 1(1):26-28.
大平仁夫 (1993) 愛知県におけるフタモンウバタマコメツキの分布(その2)。虫譜, 32(1): 1-4.

2009年の佐久島調査同行記

小 鹿 亨

2009年5月10日は三河昆虫研究会の第2回佐久島調査の日。村営の渡船乗場で待っていると、誰も来ない。この日は大潮だそうで、船はより沖の臨時渡船場から出ると聞いて慌てて移動。そこには山崎副隆弘さんと伊藤昭博さんが談笑中であつた。

佐久島の西港へ上陸。船を降りるとすぐ山崎さんは叩き網で採集を始める。港近くから一歩集落に入ると、タールで黒く塗られた建物が目につく。黒壁の狭い路地を進むと、人間を全く怖がらないネコがゆっくりと歩いている。

そこを抜けて大山方面に向かう。途中、半ば放置されたミカン畑を黒い影が動いている。尾状突起がないナガサキアゲハだ！。最近、記録はあちこちで出ているものの、筆者が住む安城市付近

ではさほど多くない。何とかネットイン！。少し古びた図示したような雄であつた。その後、大山の雑木林中で1雄を追加、採終的に1雌を含めた4頭であつた。

山頂の展望台付近では、モンキアゲハやカラスアゲハが舞っていた。この日に佐久島で見かけた他のチョウは、ツマグロヒョウモンがもっとも多く、モンシロチョウ、ムラサキシジミ、ナミアゲハなどであつた。ヤクシマルリシジミを探したが、海岸付近で採集したのはルリシジミであつた。帰りの山道でミカワオサムシを採集して終了した。この機会を与えていただいた山崎副会長に感謝し、初夏の佐久島を充分楽しんだ1日であつた。

新シリーズ・昆虫と私(6)

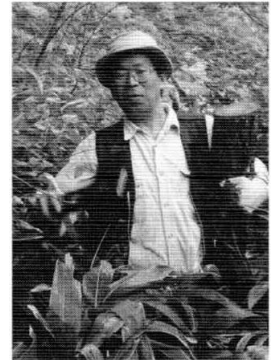
豊島健太郎

本格的に蝶を採集し始めたのが1973年で、21年間も蝶ばかり採集していました。もともと晩生な蝶屋が甲虫を採り出したのは47歳の時でしたから、甲虫屋のスタートとしては完全に出遅れです。最初はカミキリムシでもよく判りませんでしたが、毎日毎晩虫をいじっていると、だんだん虫が判るようになるものです。

Beginner's luckという言葉がありますが、思うに初心者頃の熱心が幸運を当てるような気がします。日本で2頭目と3頭目のヒゲコマツキダマシを採集できたのは、初心者が、ほとんど虫の来ない飛騨の6月の高標高地で何回もライトトラップやったからでしょう。この虫が縁でそれまで雲の上の人だった佐々治先生と親しくしていただくようになりました。昨年初めて佐々治先生の思い入れの深い稀種*Sukunahikona*を採集できました。

以前住んでいたのが可見市だったことから可見

市史で甲虫を調べることを引き受けたことは、随分勉強になりました。大半が市街地の平凡な美濃の平地で約1,200種の甲虫を記録できました。今は岐阜県の甲虫を調べることに全力をあげています。種の同定で、どうしようもないグループについては、またいろいろな方に厚くお願いをする覚悟です。今後ともよろしくお願いします。



新穂高で材を採集

新シリーズ・昆虫と私(7)

浅岡孝知

昆虫とのつきあいは比較的遅く、いわゆる昆虫少年ではありませんでした。昆虫だけでなく貝類や植物なども標本にしていました。本格的に昆虫にのめり込んだのは、大平先生(会長)のところにおじゃまするようになってからでした。

昆虫研究室では、東南アジア自然科学調査団なるものが度々派遣されていました。ただ単に外国に行けるかもしれないという気持ちから昆虫に接するようになりました。

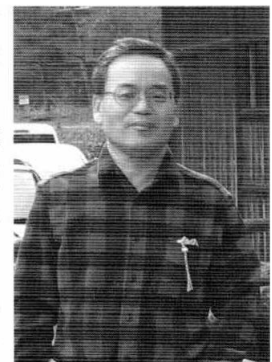
しばらくコウチュウをはじめチョウなど何でも採っていましたが、事情によりその他の昆虫の方に方向転換をしていきました。

大平先生らと北海道から沖縄まで全国の離島を旅すること15年あまりで、すっかり旅キチになってしまいました。

宝物のインロー箱を開けて見ると、現地の情景が鮮やかに蘇ってきます。不思議なものですね。

今では、三遠南信を中心に調査活動をしています。南信の区切り湖西市・旧三ヶ日町・旧引佐町・旧天竜市と進んできています。

もうじき定年を迎えることになりますが、そして老人になってもきっとフィールドに出ている、そんな人になりたいと思います。



函 阿南町で21-XI-2009

新シリーズ・昆虫と私(8)

鈴木友之

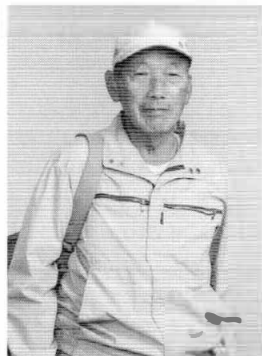
幼いころら昆虫に興味はあったが、捕らえて標本を作ることなど、戦争時下では思いも及ばなかった。

1953年に豊橋で開催された昆虫大会に参加を契機として、地方の同好会に加入し、東三河各地に足を運んだ。徒歩、自転車、電車、バスなどを利用して採集の思い出ははつきない。オオムラサキ、ホシミスジ、クロツバメシジミなど、次から次へと脳裏を駆け巡る。

私にとって終生忘れられない思い出は、大平先生の御厚意による調査団員として、米軍の占領下にあった時代の1968年の夏、西表島へ降り立った日のことである。夕暮れ迫るころであったが、寸暇をさいてネットを持って山道へ、前方の草花に

群がる蝶の群れが目に見え、飛び込んだ。そっと寄り添って慎重にネットを振る。マダラチョウの仲間が10頭あまりも入った。濃紺色のツマムラサキマダラの雌も含まれていた。あれから40余年も経た今も、あのときの光景の記憶が鮮明によみがえる。

老化した今も、身近な家の周辺で昆虫との出会いを楽しみに続けている。



◇三河昆虫研究会の総会◇

恒例になっている平成20(2008)年度の総会は、竜美丘会館で平成21(2009)年2月21日(13:00-17:00)に行われました。

事務報告ののち、名古屋大学大学院の大場先生による日本産シモフリコメツキ類の分子系統や大平会長の日本のコメツキムシの概要などの話しに続いて、各自の話題提供があり、伊藤六仁博士から託された文献類や採集用具の安価販売なども加わり、楽しい会になりました。

また、この会の姉妹会として発足した「西三河野生生物研究会」(事務所は安城市)の紹介もありました。来会者は24名で、例年のように来会者の高齢化が目立つ会でしたが、高齢になってもお互いに虫を楽しむ生活があることを改めて感謝した1日でした。(文責:大平)



三河昆虫研究会総会：竜美丘会館、21-II-2009

「総会出席者」

- 伊藤昭博；岩崎 博；桐山 功；松井直人；
- 大曾根 剛；鈴木栄二；春田祥博；金田吉高；
- 大場裕一；大平仁夫；吉鶴靖則；蟹江 昇；
- 豊島健太郎；権田 武；城殿 浩；杉坂美典；
- 浅岡孝知；早川 忍；白井和伸；山崎隆広；
- 岩月 学；鈴木友之；小鹿 亨の各位(順位不同)。

「三河昆虫研究会」の規約

1. 名称 本会は「三河昆虫研究会」と称する。
2. 目的 本会は会員相互の交流を図り、地域の昆虫類を調査研究し、生物多様性のある自然環境の保全に寄与することを目的とする。
3. 事業 本会は次の事業を行う。
 1. 会報「三河の昆虫」と不定期の連絡紙「通信」を発行する。
 2. その他、会で必要として認められた事業を行う。
4. 役員 会長1名、副会長1名、会計1名、会計監査1名を置く。
5. 会計 会の運営は会費、寄付金、会誌の売却、その他の収入で運営する。
会計年度は毎年1月1日から12月31日とする。
会費は年3,000円とする。(但し2年以上未納の場合は自然退会とする)
6. その他 会は年1回の総会を開き、会の主要事項は総会の総意で決める。
7. 事務所 事務所は下記に置く

=投稿規定=

1. 原稿は1行22字2段組とし、プリンターで作成し、フロッピーをそえる。短報などは手書きでも可能。図は当分の間白黒写真。自費負担の場合はカラー印刷もできる。
2. 原稿は印刷頁4頁以内で作成し、これを越えた分は個人負担とする(頁あたり6,000円の予定)。別刷代はすべて個人負担。

○この規約は2008年2月24日の総会で承認されたものです。会長は大平仁夫さん、副会長は山崎隆弘さん、会計監査は浅岡孝知さん。そのご、会長依頼で編集委員に山崎隆弘さんと小鹿亨さんが担当されます。

「編集後記」

岡崎市では自然共生課自然保護班と「湿地保護の会」が中心になって、ギフチョウの保全に取り組んできましたが、2月1日付で「希少野生動植物1号」に市指定されました。今後は成虫だけでなく卵・幼虫(食草も含め)も採集禁止になり、違反した場合は罰則規定が設けられていますので注意下さい。禁止は、発生地(卵や幼虫(食草も)無断

採取が絶えないため、その防止が主目的で、環境教育や調査研究の場は開かれていますので、誤解のないようにお願いします。会報は多くの会員の協力で充実した内容になりました。本年の皆様のご活躍とご多幸をお祈りしています。

(編集委員代表：大平)

☆三河昆虫研究会への入会案内☆

三河昆虫研究会は、会報「三河の昆虫」を年1回と連絡紙の「三河の昆虫(通信)」を複数回発行し、地域の昆虫相の解明につとめています。入会希望のかたは、年会費3,000円を添えて下記あて申し込みください。